

上：旧市街の古い教会では、前年度のグランプリを獲得したアヌーク・クルイトの個展を開催中だった。天井に配置された写真を手渡された鏡に写して鑑賞する仕掛け。多くの観客でにぎわっていた。左：カタログの表紙はイナ・ジャンによるファッショントリビュート。

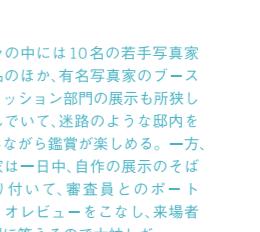


information

イエール国際モード & 写真フェスティバル
毎年5月に開催 2014年度の応募要項は10月に発表 <http://www.villanoailles-hyeres.com/hyeres2013/>



ノミネートされた写真はセットアップからアブストラクト、ドキュメンタリー、ストリート系と実に多彩だが、一様に質が高いので若手といつても見応えがあり、甲乙つけがたい。写真中央がニューヨーク在住の写真家・高木康行氏。屋久島を撮影した写真(右)とハーレムのコミュニティガーデンのモノクロの作品で応募した。



イエールは南仏の海岸沿いにある小さなリゾート地。会場となっているヴィラは小高い丘の上に立つ1923年に建てられたモダン建築で、ピカソやコクトーも訪れた建物。美しい庭を擁し、歴史ある街並みを一望できる。館内のテラスでは来場者がくつろぎながら、思い思いのベースで写真展示を鑑賞する。セミナーなどの催しも充実。

各国の写真関係者や写真ファンたちから作品についての質問を受け続け続けるので、かなりのハードワークとなる。 ファッション界では若手の登壇門として知られているこのアワード、審査員は過去に、写真家のマイケル・ウルフやジェイソン・エヴァンス、チャールズ・フレジャ、『VOGUE』[i-D]『TIME』『New York Times Magazine』誌のフォトエディター、写真エージェント「トランクアーカイブ」のディレクター、Foam美術館のキュレーター、そのほか評論家など錚々たる顔。ノミネートされた写真家もフランス、スイス、カナダ、英国、オランダ、ベルギー、オーストリアなど世界中から、すでに写真界で少し名が知られている人、ギャラリーに所属している人、写真集を出版している人から全くの無名までいろいろだが、実は今号で紹介したアヌーク・クルイトやイナ・ジャン、梅佳代もこのアワード経験者と言える。そのクオリティの高さがはかれるだろうか。

2012年には一人の日本人写真家がノミネートされた。そのうちの一人、ニューヨーク在住の高木康行は2度目の応募で、応募者約800名の中から狭き門をくぐつることができたという。

優勝者には次の年のフェスティバル期間中に市内教会での個展が約束され、参加者のうちから1名にはニューヨークのSchool of Visual Artsへ奨学生として招待される権利が与

えられるが、実際にポートフォリオレビューを体験した高木氏は実感を込めてこう語ってくれた。

「有意義なのは、賞をもらうことそのものよりも第一線にいるフォトジャーナリストやA.D.、キュレーター、批評家たちに自分の作品をじっくり見てもらえて、実用的なアドバイスが直接受けられること」。

写真界の最先端で活躍する審査員たちは、作品そのものに対するコメントはもちろのこと、出版社やギャラリーを紹介してくれたり、作家ごとに必要とされる助言をきいて具体的に与えてくれる。結果、雑誌の掲載や展覧会、ギャラリー所属などデビューのきっかけにつながっていくことが多い。作品が複数の人の目によって多角的に批評され、それに対する説明を繰り返していくことで、徹底的に鍛えられる機会になくなっている。

実際、高木氏の場合、このアワードの後、フランスの新聞『Le Monde』の『M magazine』からの仕事を得たほか、パリのボンマルシェやギャラリーのArtLigueで展覧会を開催することにつながったという。

優勝者だけではなく、10人のファイナリスト全員にとって貴重な体験とチャンスが与えられるアワード。これまで何人かの日本人がその経験をキャリアに生かしてきた。ポートフォリオレビューでは英語でのプレゼンテーションが必要とされるが、応募してみる価値は大いにある。

REPORT

南仏イエールのフォトフェスティバルで世界デビューの扉を開け!

海外のアワードは手の届かない夢とあきらめるなかれ。

実は、日本人写真家も健闘している写真祭がある。編集部が潜入レポートした。

Text : IMA

南仏コートダジュール、マルセイユとサントロペの間にイエールという風光明媚な街がある。日本人にはあまり馴染みのない地名だが、世界を目指す若き写真家たちにはぜひ、この名前を覚えてほしい。ここでは毎年5月にイエール国際モード＆写真フェスティバルというファッションと写真の一大イベントが開催されるからだ。

フェスティバルは4日間。イエールの街の小高い丘の上にある古い敷地を改装したヴィラが会場になる。毎年5月にはさまざまな催しが行われる観客たちは5月の南仏の心地よい気候を楽しみながら、リラックスした雰囲気でフェスティバルを楽しむ。期間中にはさまざまな催しが行われるが、ハイライトは若手アーティストのコンクール。ファッショント写真、それぞれのジャンルで多数の応募者の中から選出された各10組がイエールに集い、最終審査とグランプリ発表が行われる。

ファッショント部門は最終日にシヨー形式で作品を発表するが、写真部門はノミネートされた10人がヴィラ内に作品を展示して観客に自由に鑑賞してもらう。さらに4日間のうち、写真家それぞれが審査員一人一人とマンツーマンで各1時間以上、みっちりとポートフォリオレビューを繰り返しながら審査が行われる。審査員も10名ほどいるので、単純計算でも延べ100時間以上のレビューが展開されるというわけだ。写真家たちは期間中、審査員とのレビュー以外にも、来場している